

国土交通省近畿地方整備局からの 受託研究

研究・開発テーマ：大津放水路Ⅰ期区間通水記念イベントの企画とデザイン開発

指導監修教員：磯野英生（デザイン科教授）

デザイン・制作：佐久川長久（デザイン科TA）

制作協力：木村 準、牧野智之、大村典男、桂田孝太、高橋駿介、
つる田亮平、松田一生、南井克征、山下佳苗、山田健人、
橋詰和範、平林徹也、小野成之

開発担当：デザイン科住環境デザインクラス学生、研究生、TA

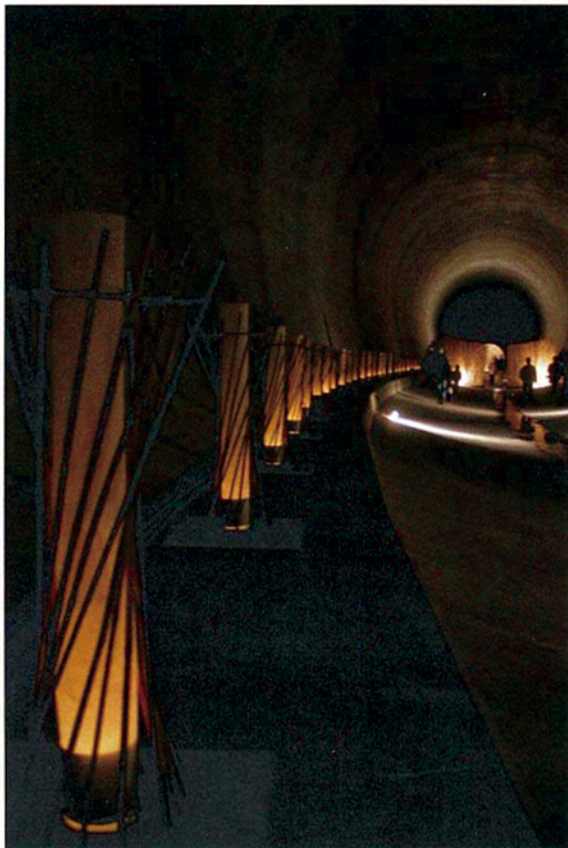
開催日：2005年2月11日～2月13日

会場：大津放水路（大津市）

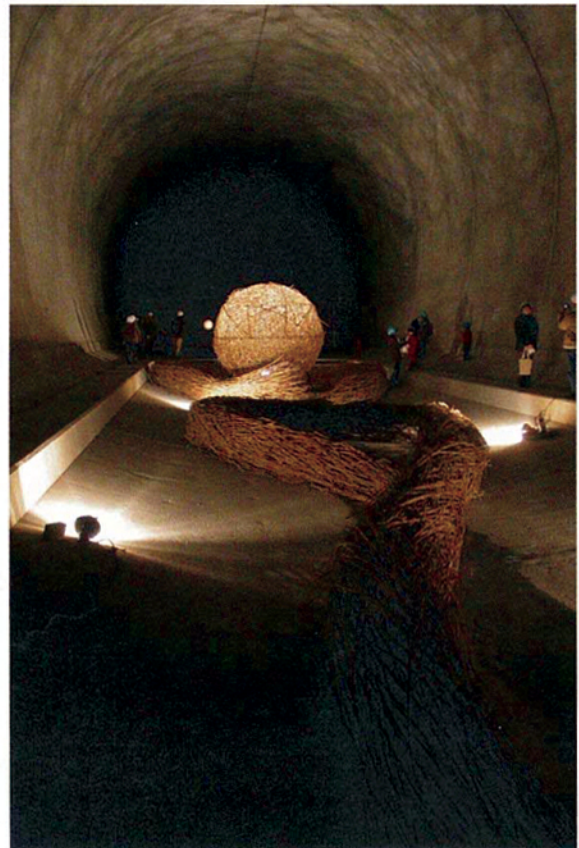
2004年9月に催された「石山秋月祭」に住環境デザインチームが「ヨシの灯り」を制作・展示したが、それを見た国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所の人から、本学芸術文化交流センターを通じて、あのようなヨシを使った展示物が出来ないかとの打診があった。大津市内に造られている放水路のⅠ期区間ができあがり、通水するのを記念してイベントを行うが、それに参加することを要請されたのである。放水路は、直径8mほどの長大なトンネルであった。この細長い空間を生かすに

は、道をテーマにする以外にないことはすぐにわかった。また放水先の瀬田川に架かる唐橋の下には竜宮があるという伝説があることは知っていたので、これから造ることになる一連のヨシの造形物を、「竜宮への灯り道」と名付けた。造形のアイデアは、佐久川長久（元T.A.）とともに考え、デザインの詳細な詰めは佐久川が行った（ヨシの行灯は、二年生の玉城盛太のデザイン）。制作は、9月に入ってから行われたが、二年生が主力メンバーになり、研究生や四年生、一年生も参加し、当初は大学で、後半はトンネル内で、制作した。モチーフは、竜宮を表す2基の門や輪によって異なる世界を表し、芽生えを表す造形物や竜と二つの珠も同時に造形した。そのうち一つの珠を遠く離れた位置に置き、奥行き感を演出した。全長250mの長いヨシの灯りの造形物は、制作の過程での創造的工夫もあって、しなやかで伸び伸びした造形に仕上がったように思う。ただ場内が危険防止のためかやや明るく照らされており、そのため光の効果が減殺されていたのが残念であった。しかし、制作にあたった学生達も創造的な制作ができたせいか、満足した表情をたたえており、指導に当たったわれわれも嬉しい限りであった。

磯野英生（デザイン科教授）



大津放水路での展示風景



ワークショップなどの記録

Report of Workshops

淡海の夢2005

企画・監修：永江弘之（デザイン科専任講師）
主催：芸術文化交流センター



馬蹄形の棚田

日本最大の湖、琵琶湖へ注ぐ豊かな滋賀の水系。そこで育まれてきた棚田・里山の風景が、成安造形大学近郊の大津市仰木地区に広がっています。全国的に圃場整備が進む中、滋賀県でも、大地の形を活かし三次元に広がる曲線美・造形美を見せる棚田の風景は数を減らしています。棚田・里山は、農家の方のたゆまぬ労働により保たれてきた、自然や生き物と人との共存空間であり、生活・文化とともにとても貴重なものと考えます。

この仰木地区の棚田・里山を中心に、写生会・風景展がはじまって4年目となります。

「淡海の夢」企画の主な内容は、1) 仰木の棚田写生会、2) 講演会、3) 公募風景展です。各方面への広報や講座に参加していただくことを通じて、大学近郊に美しい景色が広がっていること、地域と大学とが結びついて地元で根ざした取り組みをしていることなど成安造形大学の一面を学外の方にも知っていただく機会になったのではないかと思います。以下に報告します。



仰木・春の棚田写生会



仰木・秋の棚田写生会 合評

芸術文化交流センター公開講座

仰木・春の棚田写生会

開催日：2005年4月29日～4月30日（およびゴールデンウィーク中随時）

会場：大津市仰木地区

講師：井上直久（デザイン科教授）、田中真一郎（デザイン科助教授）、
永江弘之

参加：67名（内訳：本学学生52名、一般参加15名）

芸術文化交流センター公開講座

仰木・夏の棚田写生会

開催日：2005年7月9日～7月10日

会場：大津市仰木地区

講師：井上直久、田中真一郎、永江弘之

参加：16名（内訳：本学学生1名、一般参加15名）

芸術文化交流センター公開講座

仰木・秋の棚田写生会

開催日：2005年10月15日～10月16日

会場：大津市仰木地区

講師：田中真一郎、永江弘之、岸田保（デザイン科非常勤講師）

参加：33名（内訳：本学学生10名、一般参加23名）

春は、田んぼに水が張られ、棚田は水の国になる。京都新聞（4月26日）、朝日新聞（4月28日）に事前紹介の記事が掲載され、季節の良さもあり参加者がいちばん多く、にぎわった。事後、産経新聞（5月12日）、毎日新聞（5月13日）に掲載された。

夏は、今森先生の講演会後の週末に実施したが、前期最終授業の時期に当たり、学生は制作・レポートに追われて、参加しなかった。1日目は雨でやむなく途中で中止したが、雨の風情もまた格別なモノがある。事後、京都新聞（7月10日）に掲載。

秋は、風景展の後の実施となった。1日目は雨のため朝から中止。他の公開講座「遠近感のあるスケッチを楽しもう！」（講師：永江弘之）の受講者の参加もあり、一般の方の参加が多かった。1日の最後の「講評会」が好評だった。数回にわたって参加した一般の方や学生もあり、季節ごとに違った表情を見せる棚田、里山風景にふれることができた。また、写生を通して、光や風、空気感、土地の情緒など、より深く自然を感じることができた。写生会への一般の方の参加も増え、定着してきたように思う。



今森洋輔 ネイチャー・イラストレーション原画展 会場風景

今森洋輔 ネイチャー・イラストレーション原画展

会期：2005年7月4日～7月14日

会場：ギャラリー「アートサイト」

出品作家：今森洋輔（デザイン科非常勤講師）

芸術文化交流センター公開講座

滋賀の自然に魅せられて

開催日：2005年7月7日

会場：本部棟三階ホール

講師：今森洋輔

画集『琵琶湖の魚』をはじめとする、ネイチャー・イラストレーションで知られる今森氏をお迎えして、展覧会と講演会を開催した。

展覧会では、西洋の博物画の系譜をひく今森先生の細密画20点と高精細プリントによる複製画9点を展示。「魚の鱗の数もきちんと数えます」とおっしゃる作品の繊細さ、緻密さを見ると、思わずため息が出る。入場者は442名だった。

講演会では、ご自身の幼少時からのお話、イラストレーターとしての東京での活動、琵琶湖博物館の仕事をするにあたって琵琶湖と再会・再発見、琵琶湖やそれを取り巻く湖国滋賀の自然をとっても美しく感じたこと、活動のフィールドを滋賀に移し、マキノに仕事場を構え、本格的にネイチャー・アートに取り組み始めて現在に至るまでを、スライドをまじえて熱く語っていただいた。ことに、滋賀での活動を語る口調は熱を帯びた。蛾の繭の実物を手に自然界の不思議などを実感を込め語られる様子に、聴衆は引き込まれ、会場全体が一体になった感があった。講演後、原画展開催中のギャラリーアートサイトで、参加者と交流が持てたのも良かった。質問にも誠実に応えられていた。学外からも含め、入場者は56名ほどだった。



公募展 淡海の夢2005風景展 @大津市歴史博物館 会場風景

公募展 淡海の夢2005風景展 @大津市歴史博物館

会期：2005年8月9日～8月21日

会場：大津市歴史博物館

出品学生：吉岡航、中野由峰、白瀬綾子、増田葵、山本真希、新井祐樹、荻達魚、川瀬智子、日下部愛子、新岡良平、西尾涉、藤田桂子、眞鍋沙矢香、山谷妙子、山本準、浅川慎一郎、市橋まゆ美、浦上和久、太田奈津美、大槻香奈、津野光加、戸井理恵、永井綾、中上侑子、村瀬明日香、井上博之、遠藤絵美（卒業生を含む）

出品者：秋富忠至、神沢力男、小寺弥恵、土井彰吾、中村恵子、服部一輝、溝辺行雄、森馬康子、渡邊千鶴子、谷本研

賛助出品：岸田保、田中真一郎、永江弘之

棚田・里山、湖辺の郷をテーマとした作品を公募。写生会の参加者以外の一般の方の応募もあり、小学2年生から大学生、社会人の方まで幅広い作品が集まった。入場者約2500名。「つくって あ☆そ☆ほ！江戸時代のわくわくおもちゃ展」（共同企画：大津市歴史博物館・成安造形大学）と併設展示。

棚田・里山、湖辺の郷 淡海の夢2005風景展

会期：2005年9月21日～10月8日

会場：ギャラリー「アートサイト」

出品学生：吉岡航、中野由峰、白瀬綾子、増田葵、山本真希、新井祐樹、荻達魚、川瀬智子、日下部愛子、新岡良平、西尾涉、藤田桂子、眞鍋沙矢香、山谷妙子、浅川慎一郎、市橋まゆ美、浦上和久、太田奈津美、大槻香奈、戸井理恵、永井綾、中上侑子、村瀬明日香、井上博之（卒業生を含む）

出品者：秋富忠至、神沢力男、小寺弥恵、土井彰吾、中村恵子、服部一輝、溝辺行雄、森馬康子、渡邊千鶴子、谷本研

賛助出品：井上直久、岸田保、田中真一郎、永江弘之、西久松吉雄（造形美術科教授）

大津市歴史博物館に出品された作品を中心に、新たに応募された作品などを展示。入場者数955名。学外からも、地元の方をはじめ、たくさんの方に見ていただけた。今後も一般の方やより多くの学生の発表の場として、絵画や写真を通して地元の風景を見つめていける展覧会として継続していきたい。 文：永江弘之（デザイン科専任講師）

湖西発、ビジュアルメッセージ！ ～永江弘之と成安造形大学 イラストレーションクラス作品展～

会期：2005年9月1日～9月15日

会場：G-NETしが展示ギャラリー（近江八幡市）

出品学生：浅川慎一郎、伊庭真子、浦上和久、太田奈津美、大槻
香奈、岡部由佳、龍野真知子、戸井理恵、永井綾、中村
至宏、村瀬明日香、森太陽（イラストレーションクラス4年生）、
小山智史、友ちはる、馬場由未子、原公香、村井希代子
（イラストレーションクラス3年生）、近藤裕紀（イラストレーショ
ンクラス2年生）

出品者：近藤沙織（イラストレーションクラス卒業生）、鈴木藍（イラスト
レーションクラスTA）、坪山紘子（イラストレーションクラスTA）、
永江弘之（デザイン科専任講師）

主催：滋賀県立男女共同参画センター

イラストレーションクラスでは、「ハンドドローイング」を制作の原点に、想いが伝わる表現を追求している。原画のクオリティを高めると同時に、その豊かな味わいを社会へ発信していくための「デザイン」や「メディア」についての教育を展開している。

今回の展覧会では、イラストレーションクラスの永江弘之専任講師の作品12点と、卒業生・在学生らの作品21点をあわせ展示した。

永江専任講師の作品群は、湖国滋賀をフィールドとした写実風景と、心に浮かぶ映像（心象）を視覚化する幻視風景の、二つの風景の融合や連続性などをテーマに活動する同氏の制作姿勢がうかがえた。

また、学生作品は、在学中に制作する課題作品や自主制作を中心にハンドドローイング・銅版画・ミクストメディア・3DCGなど多岐にわたる表現を用い自らのテーマ性を追究した作品が展示され、来場者から「心地よい気持ちになりました」などの声をいただいた。

文：田中真一郎（デザイン科助教授）



湖西発、ビジュアルメッセージ！ 会場風景 撮影：永江弘之

石坂線文化祭 日本一細長い14.1kmの美術館

会期：2005年10月29日～11月6日

会場：京阪石坂線（大津市）

出品学生：綾戸正美、飯塚祐希、井上祥子、大西涼介、水谷夏菜
（構想表現クラス4年生）、浅見末由希、池上奈美、伊藤優作、
北畑絵名、舟田亜耶子、向井沙織（構想表現クラス3年生）、
中村有孝（彫刻クラス4年生）、大原綾香、大村大悟（彫刻
クラス3年生）

出品者：牛島光太郎（構想表現クラスTA）

主催：石坂線21の顔づくりグループ

協力：京阪電気鉄道株式会社大津鉄道事業部

「日本一細長い14.1 kmの美術館」と副題のついたこの試みは、石坂線各駅に、沿線の中高生による絵画、書道、デザイン作品を展示すると同時に文化祭特別列車を運行し、車内にもインスタレーション作品を展示するという企画であった。本学は沿線校でないが特別参加の要請を受けて、構想表現クラスの学生が車内展示を行い、彫刻クラスが石山寺、穴太、滋賀里の各駅に立体作品を展示した。会期中、穴太駅に展示されていた作品が、ゴミと間違えられて、撤去されるというハプニングもあり、現代アートのおかれている現状の一端を感じさせた？

後日、主催者からの要請で、京阪石山駅に本学のイラストクラスによる作品展示パネルが用意されて、常時、作品を展示することになった。

文：人長信昭（デザイン科教授）



石坂線文化祭 会場風景

ビワコ表現祭2005 （第35回滋賀県芸術文化祭主催事業）

会期：2005年11月12日、11月13日

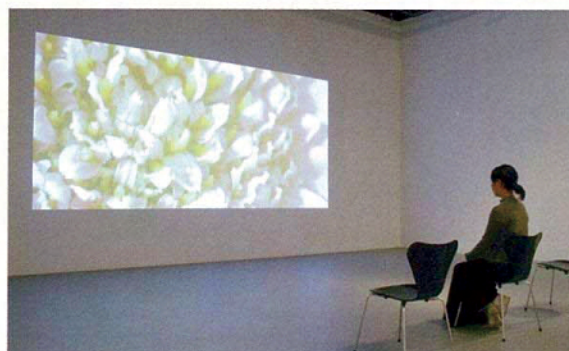
会場：本部棟三階ホール、ギャラリー「アートサイト」、カフェテリア結

主催：滋賀県、滋賀県教育委員会、滋賀県芸術文化祭実行委員会、
財団法人滋賀県文化振興事業団

協力：成安造形大学

2005年11月12、13日、第35回滋賀県芸術文化祭主催事業として「ビワコ表現祭2005」が成安造形大学にて開催されました。過去、滋賀県では県全域を対象に、プラスバンド、マーチング、ミュージカル、演劇、伝統芸能を県内イベントホールで紹介してきました。今回の祭典では、県内唯一の芸術大学である成安造形大学に会場を移し、学内外の若手アーティストを中心とした多くの実験的プログラムが実践されました。今回の祭典は演劇を中心に企画されており、大学からは演劇部「劇団テフロノG」が参加。本部棟三階ホールにてパフォーマンス公演を行いました。またデザイン科研究生、外山央、岡田道尚、金サジの3名による映像、サウンド、写真などを用いた展覧「in the Room」がギャラリー「アートサイト」で開催されました（学内からの参加者は1年生から研究生まで計22名）。今回の祭典が、多くの若手クリエイターの出会いの場となり、新たな創造への契機となることを期待しています。

文：南塚也（デザイン科助教授）



ビワコ表現祭2005 会場風景

株式会社ユーロック

研究・開発テーマ：新人アーティストのCDデビューに向けたCDジャケット等のビジュアルデザインの研究・開発

指導監修教員：田中真一郎（デザイン科助教授）

開発担当：藤田泰子、森太陽、森川奈緒（イラストレーションクラス4年生）

株式会社ユーロックとびわ湖放送株式会社より番組企画での産学連携の要請を受けた。びわ湖放送にて放映中の番組「勇さんのびわ湖カンパニー」（毎週金曜日深夜24時15分より放送）の一環で、オーディションで選ばれた大津市在住アーティストの、CDデビューに向けたプロジェクトチームが結成された。「滋賀県の若者にスポットをあて、CDと一緒に作り上げる主旨で、学生にデザイナーとしてそこに参加して欲しい」との協力要請である。

大学からは学生3人を選抜し、プロジェクトチームへ参加。番組企画の主旨・内容の説明を受け、3人が各自デザイン開発を行い、企画会議の席上で企画プロデューサー・関係アーティストに対し自分のデザインをプレゼンテーション。3人の案のそれぞれを生かしコラボレートさせる方向で、アーティストのロゴ・CDジャケット・クレジット・ポスターなどのデザインが商品化された。

プロアーティストからも絶賛を受け、当初予定のない販促ツールも急遽デザインすることになり、参加した学生にとって、大学での学びの成果を実社会で発揮する機会を得て、自信と確信が持てたと考える。文：田中真一郎（デザイン科助教授）



株式会社ユーロック

びわ湖放送株式会社

研究・開発テーマ：滋賀県をテーマにした公共CMのデザイン開発と制作

指導監修教員：小林はくどう（デザイン科教授） 櫻井宏哉（デザイン科助教授）

開発担当：放送研究会（映像クラスTA、学生を中心とした研究会）

本学の学生たちが企画から制作、編集までのすべてを担当したTVCMがびわ湖放送で昨年11月から3月末まで放送が行われている。「滋賀県を守ろう」とする公共広告で、実写編、アニメーション編、CG編の3作となっている。担当したのはデザイン科映像クラスを中心とする学生20人がメンバーの放送研究会。「実写編」では模型の街に種を蒔き、水をやると、芽が出て、緑いっぱいのびわ湖となる内容で、みんなで育てよう滋賀県をアピールしたもので、芽が育つコマ撮りが魅力。「アニメーション編」では木彫りの鳥が街の中で生命が宿り、飛び舞う様を描いたもので、鳥の羽ばたく様子が工夫が見られる。「CG編」ではサラリーマンが空き缶を琵琶湖に投げると、巨大な缶が空を突き抜けて琵琶湖に落ち、水しぶきを浴び、琵琶湖は荒れ地に成り果てるというインパクトのあるCMとなっている。いずれも完成度が高く、視聴者からも好評であった。びわ湖放送から18年度についてはマナーCM、本学との生中継、ショートリポートなどの制作要請が来ている。他にもNHKなど本学と連携のコンテンツ作りを行いたいTV局が増えているのはうれしい。

文：小林はくどう（デザイン科教授）



びわ湖放送株式会社

大津市産業観光部

研究・開発テーマ：JR大津駅舎2階のガラス部分を活用する「古都大津千年絵巻」に関するデザイン開発、プランニングと原画制作

指導監修教員：小林はくどう(デザイン科教授)、大野俊明(造形美術科教授)

開発担当：情報収集担当＝山本雅久(映像クラス研究生)

原画制作担当＝村上るみ子(日本画クラスTA)

官学連携事業の一環として研究・開発されたJR大津駅舎二階部分のガラス面を活用した「古都大津千年絵巻」の制作に関して原画指導を行いました。情報収集は映像クラス研究生が行い、それに基づいた原画づくりを日本画クラスでテクニカルアシスタントを務める村上るみ子

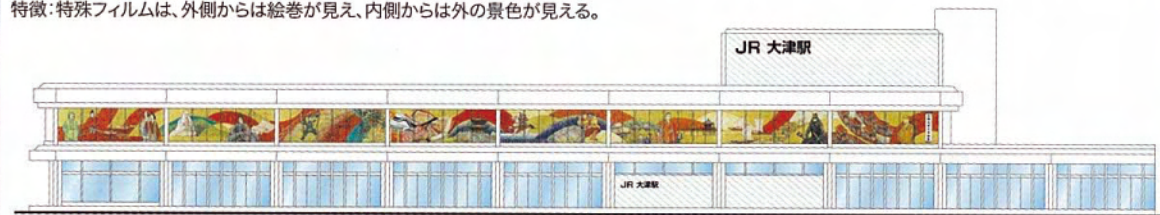
さんが担当しました。まず滋賀県大津の歴史調査から始まったのですが、あまりにも深い歴史の中から何を絵巻の題材にするかが難題でした。幸い大津市産業観光部から幾つかの提案をいただけたので、焦点を絞ることができました。また本学学長でもある木村至宏先生にも歴史学者としての立場から助言をいただけたことも原画制作の大きな支えとなったのではないのでしょうか。原画は村上さんの手により日本画材を使つての原画制作から始まりました。駅舎を利用する市民の方々に印象強く、しかも快適に見えていただける絵巻物語として楽しく構成されていました。完成した原画はガラス面原寸に拡大印刷(特殊フィルム)され、駅舎のガラス面に展示されています。JR大津駅の新しい顔となることを期待するものです。

文：大野俊明(造形美術科教授)

完成予想パース図

ガラス面は、縦約1m、横約90m

特徴：特殊フィルムは、外側からは絵巻が見え、内側からは外の景色が見える。



大津市産業観光部